

水稻生育情報 No.5

発行日：令和7年7月17日
県央農林事務所 経営・普及部門
(水戸地域農業改良普及センター)
TEL: 029-227-1521

適期の追肥と病害虫防除を実施しましょう

[生育概況] (7月11日現在)

管内の「コシヒカリ」定点圃場は平年に比べて草丈は長い～極めて長く、茎数は水戸市でやや少なく、茨城町、那珂市で平年並、小美玉市で平年より多い。葉色は水戸市で極めて淡く、小美玉市でやや淡く、茨城町、那珂市で平年並である。

幼穂長から推定した出穂期は、平年より水戸市で1日、茨城町で3日、小美玉市で6日、那珂市で2日早い。気象庁によると、向こう2週間の日平均気温は平年より高いと予想され(7月16日14時30分発表)、出穂期がさらに早まる可能性がある。

「コシヒカリ」定点調査圃場の生育調査結果 (7月11日)

調査地点	年度	移植日 (月/日)	移植日から 調査日までの 日数	栽植密度 (株/坪)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	茎数 (本/株)	葉色 (カラー スケール)	予測 出穂期 (月/日)
水戸市 坏大野	R7	5/4	66日	51.6	83.2	456.6	29.5	2.6	7/29
	平年値	5/4	66日	51.6	73.5	528.9	34.1	3.6	7/30
茨城町 上石崎	R7	5/4	66日	53.6	89.4	431.5	26.8	3.4	7/28
	平年値	5/8	62日	54.0	73.7	401.9	24.8	3.6	7/31
小美玉市 上玉里	R7	5/18	52日	54.9	83.5	488.4	29.6	3.9	8/1
	平年値	5/22	48日	55.7	68.1	402.8	24.1	4.2	8/7
那珂市 鹿島	R7	5/28	42日	51.3	72.7	456.8	29.7	3.5	8/7
	平年値	5/26	44日	50.7	60.5	417.4	27.4	3.6	8/9

[今後の栽培管理]

1 穂肥の適正施用

品種	コシヒカリ	ふくまる	にじのきらめき
穂肥時期	出穂前15日頃(幼穂長30mm)	出穂前18日頃(幼穂長5～10mm)	出穂前25～15日頃(幼穂長1～30mm)
穂肥施用量	窒素成分量で1～2kg/10a	窒素成分量で1.5～3kg/10a	窒素成分量で3kg/10aを目安
備考	出穂前20日(幼穂長4～10mm)の時点で草丈80cm以上、葉色4を超える場合は、倒伏の恐れがあるため穂肥を控える。	出穂前18日頃に、葉色4.5を超える場合には、倒伏の恐れがあるため穂肥を控える。	耐冷性が弱いので、穂ばらみ期(出穂14～7日前)に低温が予想される場合は10cmの深水管理とする。

2 斑点米カメムシ類の発生に注意し、必要に応じて防除を実施しましょう。

茨城県農業総合センター病害虫防除部より斑点米カメムシ類の注意報が発表された(7月10日)。

◆ 病害虫発生予報注意報 第1号より抜粋

病害虫名：斑点米カメムシ類(クモヘリカメムシ、イネカメムシ、アカスジカスミカメ)

発生量：多い

発生地域：県下全域

防除対策：

- ① 斑点米カメムシ類の生息場所となる水田周辺のイネ科雑草の除草に努める。ただし、水稻の出穂期※間近に除草すると、斑点米カメムシ類を水田へ追い込むことになるので、水稻の出穂2週間前までに終わらせ、出穂直前の畦畔等の除草は行わない。
※全茎の40～50%が出穂した日
- ② 出穂期～登熟初期にイネカメムシやクモヘリカメムシによって稲穂を集中的に吸汁加害されると、著しい不稔被害が発生することがある。これらの斑点米カメムシ類の発生が多い地域では、不稔被害の軽減を目的とした防除を出穂期～穂揃期に行う。
- ③ 乳熟期以降に斑点米カメムシ類の密度が高いと斑点米の発生量が多くなる。斑点米被害の軽減を目的とした防除は、乳熟期（出穂期10～15日後）に行う。防除を実施した水田であっても、その後に幼虫のふ化、成虫の再飛来が起こるため、発生を認めた場合は追加防除を実施する。ふ化直後の斑点米カメムシ類幼虫は非常に小さく、発生に気付かない場合があるため、水田内をよく観察する。
- ④ 本年は稲の出穂期が平年より早いと予想されるため、防除適期を逸しないよう注意する。
- ⑤ 防除の際には、農薬の収穫前日数や使用回数及び周辺作物（特に早生品種を作付している水田）への飛散に注意する。
- ⑥ 周辺水田と出穂期が異なる圃場では、集中的に被害を受けることがあるので特に注意する。

次回の水稻生育情報は8月発表予定です